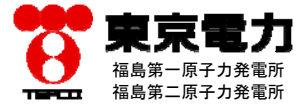


原子力発電所における排水配管の接続の誤りに関する 調査結果と対策をお知らせします。



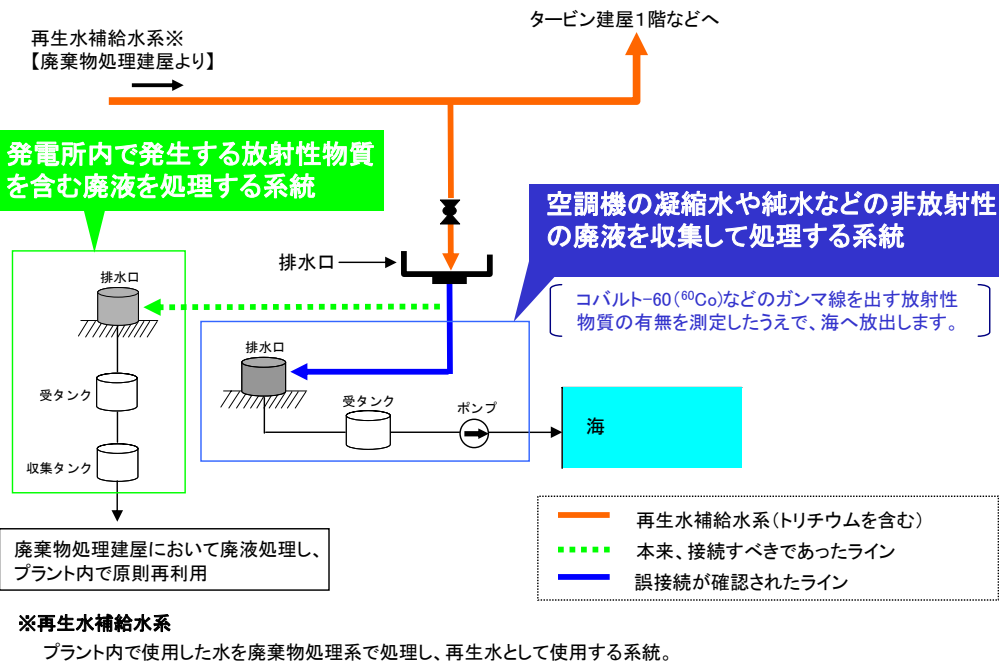
当社は、平成21年10月に福島第二原子力発電所で排水配管の接続の誤りを確認したことをうけ、当社原子力発電所において同様な事象が他にないか、調査を進めてまいりました。本件につきましては、皆さまにご心配をおかけしておりますことを、心よりお詫び申し上げます。

調査の結果、福島第一で5箇所、福島第二で21箇所の接続の誤りを確認しました。いずれも、プラント建設当時の設計の考え方やトリチウムの放出管理に対する認識が十分でなかったことなどが原因です。なお、平成15年度以降は、設計・施工に係る品質管理を強化しており、接続の誤りは確認されておられません。

接続の誤りを確認した26箇所のうち2箇所(福島第二)において、過去に、トリチウムを含む水(検出可能な濃度)を計画外に海へ放出したと判断しましたが、トリチウム量を評価した結果、国への法令報告対象となる値と比べても十分に低く、環境へ影響を及ぼすものではなかったことを確認しております。この2箇所以外については、トリチウムを含む水(検出可能な濃度)の海への放出はありませんでした。

(例)福島第二原子力発電所1号機における排水配管の接続の誤り

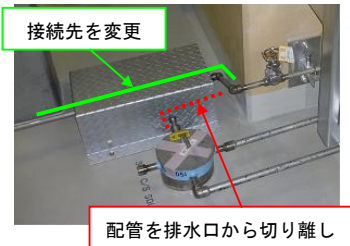
運転開始当時から、排水配管がトリチウムを測定管理していない系統に接続されていきました。建設当時は、トリチウム放出管理に対する認識不足等により、設計への配慮が十分でなかったことが原因です。



対策

■ 設備を改造します

- 接続の誤りと判断した配管の使用を禁止し、順次、設備を改造して接続先を変更します。
- 使用する可能性がない配管については閉止処置を行います。



■ 教育を継続的かつ反復的に実施します

- 放射線業務従事者の教育項目に、トリチウムの性質、管理の状況、廃液収集区分に基づく排水系統などの内容を追加します。この教育を継続的かつ反復的に実施することで、意識向上を図ります。

トリチウムとは・・・

- トリチウム(^3H)は、水素(H)の仲間で、水素とよく似た性質を持っており、自然界では雨水や海水などの形で存在しています。トリチウムはごく弱い放射能を持っていますが、非常に弱いエネルギー(ベータ線)しか放出しないため、仮に摂取しても身体への影響はきわめて低く、体内にも蓄積されない性質をもっています。
-
- 陽子 中性子
- 水素(H) 重水素(^2H) トリチウム(^3H)
- トリチウムは、原子炉の運転にともない炉内でも生成されます。原子力発電所では、トリチウムについて、原子炉施設保安規定に年間の放出管理の基準値を定めて管理しています。

今後ともプラントの安全・安定運転を継続し、ご安心いただける発電所づくりに努めてまいります。

お問い合わせ先

◆福島第一原子力発電所広報部 TEL:0240-32-0187

ホームページアドレス: <http://www.tepco.co.jp/nu/f1-np/index-j.html>

◆福島第二原子力発電所広報部 TEL:0240-25-4111

ホームページアドレス: <http://www.tepco.co.jp/nu/f2-np/index-j.html>